

## 付録・資料

### 資料1 研究依頼文

令和5年9月吉日

産業保健業務ご担当者様

## アンケート調査へのご協力をお願い

聖路加国際大学大学院看護学研究科公衆衛生看護学専攻修士課程2年の加藤里彩と申します。現在、「メンタルヘルス不調休職者に対する職場復帰支援プログラムを用いた支援の現状」というテーマで研究に取り組んでおります。職場における職場復帰支援プログラムに関する調査を予定しており、下記のとおりアンケートへのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、このご依頼は健康経営優良法人2023に認定され、かつホワイト500に認定された東京都、大阪府、愛知県、神奈川県の企業様に送付させていただいております。

### 記

#### 1. 本研究でのアンケートの目的と意義

本研究でのアンケートは職場復帰支援プログラムの実施状況を把握し、メンタルヘルス不調による休職者への復職支援実施状況を明らかにすることを目的としています。これにより、メンタルヘルス不調による休職者の職場復帰に向けたより良い支援の実施、職場風土に合わせた支援方策の策定について示唆を得ることができると考えております。

#### 2. お願いしたいこと

貴社において産業保健業務をご担当されている方1名（医師、産業看護職、衛生管理者の資格を持たれている方）に無記名アンケートへのご協力をお願い致します。

研究にご協力いただける場合は、同封しておりますアンケート用紙にご記入いただき、同じく同封しております返送用封筒でのご返送お願いいたします。

- ・ **返送期日：9月30日**
- ・ 所要時間：10分程度
- ・ 内容：お聞きしたい内容は主に以下の2点です。
  - 1 回答いただく方の職種や所属されている職場体制について
  - 2 職場復帰支援プログラムなど実施されている復職支援について

#### 3. お約束すること

研究協力に際して、以下のことをお約束致します。

- (1) 本調査は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認および学長の許可を受けて行われます（承認番号：23-A053）。
- (2) 研究協力は皆様の自由な意思によって決めていただくものです。アンケート用紙に記載しております同意のチェックボックスへチェックされた回答の回収をもって、本研究調査へのご協力の同意とさせていただきます。アンケートは無記名のため、返送後は情報の削除および研究協力の撤回をすることはできません。
- (3) アンケートの回答により精神的苦痛や問題が生じた場合は、回答を中止し速やかに研究責任者又は指導教員へご連絡ください。精神的苦痛や問題が明らかとなった場合は、対象者からの連絡を受けたのち、了承を得て医師に対象者の体調や状態を連絡し、適切な医療を迅速に受けられるように対応いたします。
- (4) 研究協力を辞退された場合でも、一切不利益のないことを保証いたします。
- (5) 研究で得られた内容は、研究成果を広く活用していただくため、学会などで発表させていただきます可能性がございます。研究成果の公表に際しても、無記名調査のため個人や組織が特定されることはございません。
- (6) 将来このデータを利用して研究が行われる場合には、改めて当法人の研究倫理審査委員会へ申請し、承認された場合のみ実施いたします。
- (7) 研究計画および研究方法についてご不明な点がございましたら、以下の研究責任者までメールにてご連絡ください。他の研究対象者等の情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で情報を開示いたします。

本研究についてご質問がございましたら、お手数ですが下記の連絡先にお問い合わせください。

研究責任者：聖路加国際大学大学院看護学研究科

公衆衛生看護学 上級実践コース 修士課程 2 年

加藤 里彩

連絡先：〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1

Email: [22mn010@slcn.ac.jp](mailto:22mn010@slcn.ac.jp)

指導教員：根岸薫（聖路加国際大学大学院公衆衛生看護学助教）

電話番号（公衆衛生看護学研究室）：03-5550-2274

## 職場復帰支援プログラムに関するアンケート

〈ご記入にあたってのお願い〉

「アンケート調査へのご協力をお願い」を読み、同意いただける場合、下記のチェックボックスにチェックし、お進みください。

### ☐ 本研究の参加に同意します

◇ 質問の中の下記の語句は、このような意味で用いていますので、ご参照ください。

- ・職場復帰支援プログラム：職場復帰支援についてあらかじめ定めた事業場全体のルール。
- ・職場復帰支援プラン：休業していた労働者が復職するにあたって、復帰日、就業上の配慮など個別具体的な支援内容を定めたもの。職場復帰支援プログラムのうちの一つ。
- ・メンタルヘルス不調：ストレスや強い悩み、不安など、労働者の心身の健康、社会生活及び生活の質に影響を与える可能性のある精神的及び行動上の問題。
- ・産業保健従事者：事業所に所属し、医師、保健師、衛生管理者の資格を持ち、健康管理に関する業務に従事する者。

### ■ あなたが所属する職場について、お尋ねします

問1 事業場の従業員数どれに該当しますか。1つ選んで選択肢の数字に○印をつけてください。

|   |                   |
|---|-------------------|
| 1 | 1000 人未満          |
| 2 | 1000 人以上 2000 人未満 |
| 3 | 2000 人以上 3000 人未満 |
| 4 | 3000 人以上 4000 人未満 |
| 5 | 4000 人以上          |

問2 事業場の業種はどれに該当しますか。1つ選んで選択肢の数字に○印をつけてください。

|   |         |
|---|---------|
| 1 | 製造業     |
| 2 | 建設業     |
| 3 | 卸売業、小売業 |
| 4 | サービス業   |
| 5 | その他 ( ) |

問3 あなたの職種について教えてください。1つ選んで選択肢の数字に○印をつけてください。

|   |               |
|---|---------------|
| 1 | 産業医           |
| 2 | 産業看護職         |
| 3 | 心理職           |
| 4 | 事務職（人事課、総務課等） |
| 5 | その他（ ）        |

問4 メンタルヘルス不調による休職者への復職支援はどの職種が中心となって行われていますか。該当するものすべての選択肢の数字に○印をつけてください。

|   |               |
|---|---------------|
| 1 | 産業医           |
| 2 | 産業看護職         |
| 3 | 心理職           |
| 4 | 事務職（人事課、総務課等） |
| 5 | その他（ ）        |

■ 職場復帰支援プログラムについて、お尋ねします。

問5 職場復帰支援プログラムは知っていますか。

|   |                   |
|---|-------------------|
| 1 | よく知っている           |
| 2 | 名前は知っているが詳しくは知らない |
| 3 | 知らない              |

問6 あなたの所属している事業所では、職場復帰支援プログラムを策定していますか。

|   |         |
|---|---------|
| 1 | 策定している  |
| 2 | 策定していない |
| 3 | 分からない   |

- 1を選んだ方は問9へ
- 2または3を選んだ方は問7へ

問7 職場復帰支援プログラムを策定していない理由を教えてください。

|   |                                     |
|---|-------------------------------------|
| 1 | 職場復帰支援プログラムを知らなかった                  |
| 2 | 職場復帰支援プログラムが休職者の復職支援において効果があるか不明である |
| 3 | 職場復帰支援プログラムを策定する時間が無い               |
| 4 | その他（ ）                              |

問8 現在、あなたの所属している事業所で実施されている復職支援制度を簡単に教えてください。ここでの復職支援制度とは、職場復帰支援プログラムに含まれないものを指します。

自由回答（ ）

→問14へ

問9以下の選択肢のうち、策定しているものや実施しているものを教えてください。 ←

該当するものすべての選択肢の数字に○印をつけてください。

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1 | 産業保健従事者との定期的な面談 |
| 2 | 傷病手当金など経済的な保障   |
| 3 | 職場復帰支援プランの策定    |
| 4 | 試し出勤制度          |
| 5 | 復職時の就業上の配慮      |
| 6 | 事業外資源の利用        |
| 7 | その他（ ）          |

問10 職場復帰支援プログラムの中で対応が最も難しいと感じる場面を教えてください。1つ選んで  
 選択肢の数字に○印をつけてください。

|   |                          |
|---|--------------------------|
| 1 | 病気休業開始及び休業中のケア           |
| 2 | 主治医による職場復帰可能の判断          |
| 3 | 職場復帰の可否の判断及び職場復帰支援プランの作成 |
| 4 | 最終的な職場復帰の決定              |
| 5 | 職場復帰後のフォローアップ            |
| 6 | その他（ ）                   |

問11 職場復帰支援プログラムにおいて、課題だと感じることを教えてください。該当するものすべてに  
 選択肢の数字に○印をつけてください。

|   |                          |
|---|--------------------------|
| 1 | 他職種との連携                  |
| 2 | メンタルヘルス不調におけるご自身の知識（専門性） |
| 3 | メンタルヘルスについての社員への教育       |
| 4 | 職場の制度や体制                 |
| 5 | その他（ ）                   |

問12 職場復帰支援プログラムは有効であると実感していますか。

|   |           |
|---|-----------|
| 1 | 実感している    |
| 2 | 実感できていない  |
| 3 | どちらとも言えない |

問13 問12で回答いただいた有効である又は有効でないと感じる理由について教えてください。  
 （任意）

自由回答（ ）

ご回答が必須となる質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

問14 以降は任意の質問となります。ご回答頂ける場合はお進みください。

問 14 現在、あなたが所属する事業所にメンタルヘルス不調による休職者がいますか。

|   |     |
|---|-----|
| 1 | はい  |
| 2 | いいえ |

問 15 2019 年 4 月から現在までにメンタルヘルス不調により休職し、その後復職した方はいますか。

|   |     |
|---|-----|
| 1 | はい  |
| 2 | いいえ |

問 16 2019 年 4 月から現在までにメンタルヘルス不調により休職し、その後退職した方はいますか。

|   |     |
|---|-----|
| 1 | はい  |
| 2 | いいえ |

最後までご回答くださり、ありがとうございました。

9 月 30 日までに同封しております返送用封筒でのご返送お願いいたします。

### 資料3 ハガキ

#### アンケート調査へのご協力をお願い (再送)

聖路加国際大学大学院看護学研究科公衆衛生看護学専攻修士課程2年の加藤里彩と申します。先日お送りさせていただいた「職場復帰支援プログラムに関するアンケート」へのご協力をいただきたくお願い申し上げます。

すでにご回答いただいた方々には、心よりお礼申し上げます。まだご回答いただいておらずご協力いただける場合、9月上旬に送付しております調査用紙にご回答いただき返送いただけますと幸いです。期間につきましては、**10月25日まで**延長しております。

多くの方にご協力いただくことで、信頼性の高い調査ができております。

ご多忙のことと存じますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本研究についてご質問がございましたら、お手数ですが下記の連絡先にお問い合わせください。

研究責任者：聖路加国際大学大学院看護学研究科  
公衆衛生看護学 上級実践コース 修士課程2年  
加藤 里彩

連絡先：〒104-0044 東京都中央区明石町10-1

Email: 22mn010@slcn.ac.jp

## 謝辞

本研究の実施にあたり、多くの方々からのご支援とご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

アンケート調査にご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。皆様の貴重なご意見と協力なくして、この研究の成果は得られませんでした。

そして、本研究を指導してくださいました根岸薫先生、森田誠子先生には、熱心で的確なご指導を賜り、心より感謝申し上げます。研究に行き詰まることもありましたが、どんな時も向き合い丁寧に指導くださりました。また、公衆衛生看護学教授の麻原きよみ先生をはじめ、公衆衛生看護学の先生方や看護情報学の米倉佑貴先生、同期に、的確なご助言やご指導をいただきました。本研究を通して、保健師及び研究者としての考え方について、多くのことを学ばせていただきました。誠にありがとうございました。

また、本研究は赤津慎太郎若手研究奨励プログラムからの助成金をいただき実施いたしました。この場を借りて深く御礼申し上げます。

そして、同期とは、共に過ごす中で学びを深め合いました。学生生活を送る上で私の支えであり、かけがえのない存在です。

最後に、大学院への進学を後押しし支えてくれた家族に心から感謝致します。

2024年1月19日

聖路加国際大学大学院看護学研究科

公衆衛生看護学専攻 上級実践コース修士2年

加藤 里彩